

Peace Wave

Okinawa
Peace Assistance
Center



特定非営利活動法人
沖縄平和協力センター(OPAC)
沖縄県那覇市久茂地 3-15-9 アルテビル那覇
TEL (098)866-4635 / FAX (098)866-4638
<http://www.opac.or.jp>
[\(http://blog.livedoor.jp/opac/\)](http://blog.livedoor.jp/opac/)

OPACのロゴマーク
沖縄を飛び出し世界の
現場で活躍することを
イメージしました。

沖縄の心を具体的な行動に
Transforming Okinawa's Heart into Action

2006.0ct No.12



JICA留学生セミナー開催	1
留学生セミナーレポート	2
OPACインターン紹介	3・4
OPAC理事紹介	5・6・7
OPAC理事紹介/掲示板	8



JICA留学生セミナー開催

「沖縄の戦後復興と平和構築」
～テーマ:移行支援の取り組み～

今年もOPACでは独立行政法人国際協力機構(JICA)より委託をうけて、8月16日～21日の日程でJICA留学生セミナーを開催しました。今回の沖縄でのセミナーには、日ごろ日本の大学で学んでいる留学生たち、16カ国から20名の学生たちが、戦後復興などについて学ぶべく参加しました。

セミナーでは、沖縄県平和祈念資料館や平和の礎などの視察から、先の沖縄戦を目の当たりにし、戦争について学びました。同時に、沖縄の講師たちによる講義からは、沖縄がどのように戦後の復興してきたか、現在の米軍基地の実態はどのようになっているのか、沖縄と米国の結びつきなど、多くの事実を学びました。

これらのセミナー内容からは、沖縄についての知識を学ぶと同時に、それぞれの母国に結び付けて物事を考えるよい機会になったと思います。

写真左: 留学生の全体写真 (2ページ参照)
写真右: 視察先の平和の礎 (2ページ参照)

土曜日から日曜日にかけて開催した合宿ワークショップでは、平和構築をテーマに、県内から学生や社会人など総勢17名が参加し、彼らと一緒に時間を過ごしました。

紛争の分析や和解をテーマに、お互いに英語を駆使しながら熱い議論を交わし、時にはレクリエーションも交え、充実した2日間を過ごしました。

このセミナーを通じて、OPACから留学生に対しては、多くの知識や考え方、沖縄の人々との思い出、そしてかれら留学生同士の絆を与えられたと思います。日本各地で学位取得のために滞在している留学生たちは、今回の沖縄セミナーがそれぞれにとって初対面でありましたが、この機会を通じて得た交流は、セミナー終了後もお互い連絡を取り合うなどして続いています。

OPACとしても、沖縄で紛争や平和について学んだ彼らが、これから先も変わらぬ友情を持ち続け、それぞれの発展のために寄与していく事を期待しています。

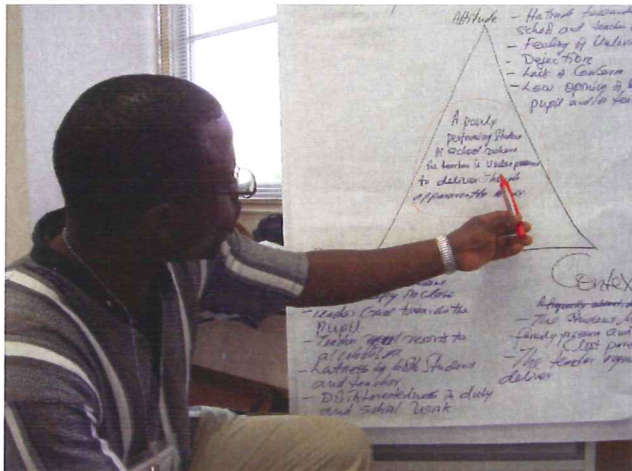
JICA留学生セミナー

8月の暑い夏の1週間でしたが、留学生たちは沖縄で戦後復興と平和構築について、多くのことを学びました。

講義、視察でご協力頂いた皆様、ありがとうございました。



宜野湾市役所では基地を抱える現状の説明を受けた。



「紛争の分析」について発表するオペルさん



いろいろな国から老若男女が集まって、「平和って何だろう？」と考えた。



平和の礎では戦没者の慰霊について各々が考えた。



ワークショップで宿泊した「サンセット美浜」から見える美しい夕日と入ってみたかったプール。

セミナーの日程

- 8月16日(水) 開講式 (JICA沖縄国際センター)
講義「平和構築概論」
講義「実体験者の目から見た沖縄戦の戦後復興」
- 8月17日(木) 講義「沖縄の戦後復興プロセスの概要」
講義「沖縄における戦後の教育復興」
視察 (平和の礎・沖縄県平和祈念資料館)
- 8月18日(金) 講義「沖縄と米軍基地問題」
(嘉数高台より普天間基地を視察)
講義「基地を抱える市の状況」(宜野湾市役所)
講義「沖縄県民と米軍の関係」
(米国総領事館軍事政治担当領事)
視察 (佐喜真美術館)
- 8月19日(土) ワークショップ「紛争解決と平和構築の基礎理論」
- 8月20日(日) ワークショップ「戦後復興シミュレーション」
- 東ティモールの事例から -
- 8月21日(月) 評価階・閉講式 (JICA沖縄国際センター)

OPAC インターン紹介

留学生セミナーの期間と前後して、今年も多くのインターンがOPACに参加してくれました。そこで、今年のインターンの感想を、彼らに書いてもらいました。人材育成の一環として、これまで多くのインターンがOPACに来てくださいましたが、これからも希望者がいたら是非ご連絡いただければと思います。それでは写真とともに、どうぞ。

清水 雅代 (写真①) (東京国際大学在学中)

私が、OPACにインターンとして来たのは二度目になる。前は、安全保障を中心に勉強させてもらい、今回は、留学生セミナーを経験させてもらった。留学生セミナーの醍醐味でもあると思うが、様々な国の人々と国際交流ができるというのは、普段の生活では体験できないとても貴重な機会であった。

留学生セミナーは、8月16日～21日の一週間の日程で行われた。当初私は、他のボランティアの方とは違まったく英語が話せないことがネックだった。そのせいもあり、最初は留学生とも壁を作りがちであった。

それを見兼ねた、仲泊さんや他のインターンの方がフォローしてくれ、時間が経過するにつれ、留学生とも打ち解けることができた。そして、英語はコミュニケーションをとるための道具なのだということを教わった。私は、その通りだと時間が経つにつれとても実感するようになった。

それは、自分から単語でもいいから会話をしようと、気持ちを少し前進させただけで変わってくるものだと感じた。単語で話しかけても、相手は理解しようとしてくれ、反対に見兼ねた留学生が、フォローしてくれる場面も多々あった。最終日の頃には、留学生とも大分打ち解けることができた。留学生に英語で自分の感謝の気持ちを伝えたいと思い、周りの人に協力してもらいながら、自分の気持ちを英語で伝えることができた。その時、留学生に拍手をもらったことが一番の思い出となった。

最後に、留学生セミナーで得たものはとても多く、ここでは書ききれないのだが、敢えて言うならば、積極性と信頼関係を築くことができたのではないだろうか。



國吉 純一郎 (写真②、③左) (カナダ国立コンコーディア大学在学中)

以前からホームページを通じOPACに興味があり、この夏、急遽帰沖した際、インターンをさせてもらう事になった。

主に留学生セミナーに携わらせてもらったが、NPOでの仕事も初めてで、自主的に業務をこなし、仕事への責任感を持たせてくれるOPACでの業務に始めは戸惑いつつも、少しながらも貢献できる事に誇らしく思えた。

ひとつ心残りなのは、上杉先生の論文の翻訳が思うようにうまく出来なかった事だ。自分の詰めの甘さを痛感したとともに、先生に迷惑をかけたことに申し訳なく思う。

留学生セミナーは密度も濃く、サポート、またワークショップ参加者として様々な事を学ばせてもらった。もともと開発学に興味があり、OPACで開発における平和の重要性を学びたいと思っていたが、セミナーの講義で平和構築という開発の基礎となる部分を学ばせてもらった事は、僕の開発に対する考え方をさらに深めてくれたと思う。

最後に素晴らしい経験をさせてもらう機会をくださったOPACのスタッフの皆さん、ありがとうございました。

写真③



OPAC インターン紹介

写真④



比嘉 陽子 (写真④、⑤左)
(琉球大学卒業)

いつからだろうか、多くの人が平気で“仕事は金のためにする”と言うようになったのは。“働かなくても飯が食えるならその方がよっぽどいい”らしいのだ。それほどまでに興味のない仕事をなぜ続けることができるのだろうか。よく「好きなものは仕事にするな」なんて言葉を聞くが、好きなものこそ仕事にすべきである。自分の好きでもない、ただ安定性がいだけの仕事に月曜から土曜の朝8時から午後5時まで、若しくはそれ以上に時間を割かれるなんて、人生の無駄遣い以外の何ものでもない。(更には日曜でさえも、“たまの休日ぐらい家でゴロゴロしたい”なんて思った日にはもう最悪!) 人生の長さは限られている。私たちは、自分の好きなことだけに人生を費やしたっていいのだ。

今回お手伝いをさせて頂いたOPACの仕事は本当に楽しかった。留学生が快適に過ごせるように手助けをして、それに対して「ありがとう」と言ってもらえることにも勿論喜びを感じるし、それ以上にワークショップがみんなにとって有益になるように上手く進行させようと試行錯誤したり、レクチャーやオブザベーションが目的通りに遂行されるように尽力したりすることが楽しくて仕方が無いのだ。プログラムの全ての工程には意味がある。宜野湾市役所の視察の後にアメリカ大使館の視察を入れたのは、一方からのみ発信される意見に偏らないようにバランスをとる為でもあるし、それと同時に双方の意見を対比させる為でもある。週末にJICAから出て美浜に合宿したのは、そろそろ飽き飽きしているであろうJICA缶詰生活に変化をつけてリフレッシュさせ、再び集中力を取り戻してもらおうという意図がある。いちいち挙げていたらきりが無いほど綿密に計画され、きちんと構成されたこのプランに参加させて頂いたことを大変嬉しく思う。

「仕事は趣味だ」は、私の口癖のひとつだ。勿論生活の手段でもあるが、人生の多くの時間を占める“仕事”は自分にとって楽しくあるべきだ。私は将来、OPACに勤めているかもしれない。その時またお会いしましょう。

田中 健太郎 (写真無し)
(大阪大学大学院修士課程在学中)

私がOPACでのインターンを希望したのは、シンクタンクが普段どのようなことをしているかに興味があったことと、OPACが米軍基地問題を研究しているということが理由にありました。インターンでは私自身は業務のお手伝いにはほとんど関われませんでした。だいたいの雰囲気は掴むことができました。また、米軍基地問題に関する資料を見せて頂いたり、研究員の方(事務局長)からお話を伺ったことで米軍基地問題に対する理解が深まったと思います。

このようにインターンの当初の目的は達成できたわけですが、何よりも収穫だったのが、OPACを通じて多くの人に出会えたことです。レポートを書くために、レポートがなければ訪れる予定の無かった自治体を訪問しました。その際には職員の方から深くお話を伺ったことで基地問題の取り組みの難しさを、これまでとは違った観点から感じることができました。何名かのOPACの理事の方にお会いして頂き、お話を伺うことができたのも私にとって非常に良い刺激となり貴重な機会だったと思います。そして、その他にもOPACに深く関わっていらっしゃる方や他のインターン生とも交流することができ、とても恵まれていたと思います。OPACだからこそこれらの出会いがあり、そのおかげで充実したインターンとなりました。

インターン中に出会った全ての方と温かく受け入れて頂いたOPACスタッフの皆様には本当にお世話になりました。短期間でしたが、本当にありがとうございました。

写真⑤



OPAC 理事紹介

OPACのような小さな組織でも、会員の皆様は当然のこと、ご協力いただいている理事の方々もたくさんおります。そこで今回は、これまでご紹介する機会があまり無かった理事の皆様に、OPACについてお伺いしてみました。

インターンが直接聞き取りに行ってみたり、回答を送っていただいたりして出来たこの「理事紹介」、ご都合などで全ての理事を紹介することができておりませんが、これからも機を見て行ってまいりますので、どうかよろしくご覧下さい。



1. 氏名・職業

氏名：糸数 剛
職業：財団法人南西地域産業活性化センター(NIAC)専務理事

2. これまでのOPACを振り返って

OPACは設立以降、実働部隊長の上杉副理事長をはじめとするスタッフ及び事業目的

に賛同するボランティア・インターン生などの真摯な取り組みで、国際協力事業、沖縄在米軍基地の負担軽減にかかる調査提言等、平和構築事業の沖縄からの発信に大きな効果があったと思っております。

3. 今後のOPACへの期待とそこで私(理事)が果たしたい役割

沖縄は今、普天間飛行場移設にかかる早期撤去や代替地の問題、米軍再編に関わる跡地利用の課題などOPACのネットワークを活用しての適時的確な情報収集分析発信が求められているのではと思います。私は、それらの事業遂行のための管理運営面で少しでもお役に立てればと思います。



1. 氏名・職業

氏名：安里 繁信
職業：シンバネットワーク代表

2. これまでのOPACを振り返って

平成14年にNPO法人として承認され、地道な活動を続けているOPACの趣旨に賛同し、副理事長を勤めさせ

て頂いている。来たる平成18年10月18日に満4年を迎えるわけだが、果たしてその認知度は今もって低い。我々メンバーが周知活動に努めるのは勿論のこと、NPO法人として、もっと自助努力する必要性を感じている。

3. 今後のOPACへの期待とそこで私(理事)が果たしたい役割

では一体何ができるのか…。一案だが、これまで平和構築を目的として掲げている活動の柱：①調査研究、②協力活動、③人材育成、そして④交流・ネットワークづくり～、これらをもっと内外に向け、PRすることはできないだろうか。毎年行われるそれぞれの活動の節目に、地元はもとより国内外のメディアへの情報提供や協力関係の構築を求めてみたい、中立な立場を堅持しつつ、平和や安全保障のシンクタンク、アカデミックな研究機関等の経路を介してその活動を知ってもらうのである。役員として、活動内容の報告を受けるが、一般の媒体を通じてその情報を得ることは今のところ皆無に等しい。これでは組織の存在自体「知る人ぞ知る」という状況に陥り、組織運営(=存続)にとって最も重要である資金調達が将来的に困難となる可能性を危惧する。現状でさえ、その資金の多くを内外の公的・私的機関からの受託事業や会員等からの会費等に依存しているのだから。一般に認知されてこそ、その活動への評価や賛同は得られるものだと思う。また同時に何らかの収益事業の可能性も検討の余地がある。

今後とも役員としての協力は惜しまないし、できる支援は引き続き行っていきたい。上杉勇司副理事長はじめ、中心的に活動する事務局メンバーは高い志を持ち、殆どボランティア的に奔走されている。その努力をもっともっと知ってほしい。そしてこの組織が発展的に成長してほしいと願うのである。



1. 氏名・職業

氏名：上杉勇司
職業：広島大学大学院国際協力研究科助教授

2. これまでのOPACを振り返って

今までの沖縄にはなかった面白い活動を展開することができた。

3. 今後のOPACへの期待とそこで私(理事)が果たしたい役割

風雲児・坂本龍馬が日本の危機を救うために薩長同盟を成し遂げたように、OPACには、健全な「日米関係」、良好な「沖日関係」、そして沖縄内の建設的な「保革関係」の3つを成し遂げてもらいたい。知恵を絞り、場を提供し、人々をつなぐことで、様々な利害を調整するお手伝いをしたい。

OPAC 理事紹介

先ほどのページの糸数理事長、それと2人の副理事長に続きまして、一般理事の皆様です。

紙幅の都合もあり、今回は全員の紹介は出来ませんが、それぞれの理事の皆様のOPACにかける思いと意気込みを感じていただければと思います。

それでは、引き続き写真とともに、どうぞ。



1. 氏名・職業

氏名：玉寄 通孝
職業：財団法人南西地域産業活性化センター(NIAC) ISO審査登録センター所長

2. これまでのOPACを振り返って

私はOPACの設立準備室時代に担当の調査部長としてこれに関わり、OPACがNPO法人

として立ち上がって行く様をずっと見続けて来ました。OPACの最初の海外青年招聘事業の際には、東ティモールの若者に自宅でホームステイしてもらい、息子と遊んでもらった事が懐かしい思い出です。

3. 今後のOPACへの期待とそこで私(理事)が果たしたい役割

OPACは上杉さんという強力なキーパーソンに引き寄せられて、すばらしいメンバーに恵まれています。これからも、その人的ネットワークが広がって行くことを期待しています。私はISOに関わる人間として、OPACがこれから組織として発展する為の仕組みづくりのお手伝いが出来ればと考えています。



1. 氏名・職業

氏名：湊辺 美紀
職業：株式会社ビジネスランド代表取締役社長、株式会社JCC専務取締役、ロワジュールホテルズ沖縄 顧問、内閣府沖縄振興審議会専門委員など

2. これまでのOPACを振り返って

2002年8月に設立されてまだ4年しか経たない組織ではありますが、その間に設立目的であった①研究活動②平和貢献の実践活動③人材育成④国際交流拠点としての活動は地道ですが着実になされてきたと思います。

3. 今後のOPACへの期待とそこで私が果たしたい役割

米軍再編に関するフォーラムやワシントンD.C.での討論会、また東ティモールとの交流やアフガニスタン・カンボジアなど海外との接点や、海外に向けての情報発信をOPACはしてきましたが、今後も研究のみならず実践活動は是非続けて欲しいと思います。またこのような活動の中で理事として協力できるもの、特に人材育成・交流の場等では協力していきたいと思います。OPACだからできることは今後増えると思います。

1. 氏名・職業

氏名：宮崎 政久
職業：弁護士

2. これまでのOPACを振り返って

OPACの活動は、沖縄が生きていくためのアイデンティティを確立していくために本質的に重要な活動だと思います。これからは日本という国の中で、沖縄がどのような地域的役割を担っていくのかを明確にしていかなければなりません。

沖縄が自らの価値を見出そうとする際に、平和協力という言葉は大切なキーワードであると思います。沖縄がアジアを始めとする世界に関わっていくために、そして日本の平和と安全を守るために積極的に平和に関与し実践していく。そのために何が必要なのかを沖縄は打ち出していく必要があります。礎は小さな一歩から始まりますが、誰かがやらないと礎にはなりません。OPACは沖縄にとって必要なその礎となる活動を行ってきたのだと思います。

3. 今後のOPACへの期待とそこで私が果たしたい役割

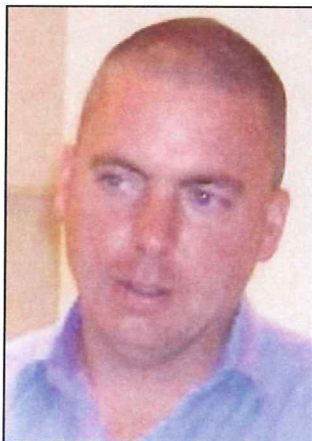
OPACには沖縄が生きていくための中核的な場所になっていくよう期待しています。例えば、OPACが母体となって平和協力推進大学になるといった形で、将来的にはOPACが沖縄を平和協力・安全保障の研究と発信の中心にすることができたら良いですね。今は小さな礎ですが、世界の研究者が一目置く組織になって欲しいです。私としてはそのための協力をしていきたいと思っています。



OPAC 理事紹介

引き続いての理事紹介です。

エルドリッジ理事は以前から調査研究でご協力いただいておりますが、このたび新しく理事の役割もお引き受けいただきました。



1. 氏名・職業

氏名：Robert D. Eldridge
職業：大阪大学大学院国際
公共政策研究科助教授

2. これまでのOPACを 振り返って

OPACの設立の前からその関係者たちと交流があり、設立が実現できたことは本当に嬉しかった。

その後のOPACは、基地問題はもちろんのこと、平和構築、国際的な学術・実務交流、政策提言的な役割を果たしている、とても重要な存在である。本土や海外からみた場合、高く評価されているが、沖縄側からの応援や支援、協力が足りない気がし、非常に残念である。

県庁や沖縄の主要な機関はOPACの実績を十分に参考し、活かしていると思えないので、今後は有意義に活用して欲しい。

3. 今後のOPACへの期待とそこで私(理事)が果たしたい役割

特にOPACに期待するのは、次の三点である。一つは、現在の取り組んでいる再編以降の日米関係と沖縄をとりまとめ、その成果を沖縄全体が大いに参考するようになること。二つ目は、国際政治、国際協力、安全保障の分野で、次世代のリーダーたちを育成すること。三つ目は、全国の平和教育の場になること。

戦争が悪いという単純な発想ではなく、どのように紛争が生じ、どう解決するのかといった、現実的な教育をさらに発展してほしい。



1. 氏名・職業

氏名：又吉章元
職業：沖縄経済同友会事務局長

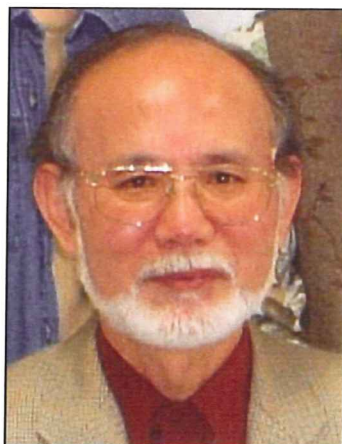
2. これまでのOPACを 振り返って

沖縄経済同友会では、平成13年に沖縄・アジア太平洋平和協力センター(仮称)を設立すべく調査報告書を出したが、財政的問題もあり、当初構想より小規模な形でスタートした。平成14年にOPACがNPO法人として活動を開始した。実質的には上杉勇司さんの個人的ネットワークをフルに動員しての活動であった。財政基盤が脆弱な中、若い人の育成、平和実践活動に功績を残してくれた。

3. 今後のOPACへの期待とそこで私が果たしたい役割

米軍再編が進み、沖縄の基地問題はこれから新しいステージに入ると思います。沖縄の経済的發展がアジア各国との交流の中で促進されていく段階で、平和と安全保障に関する調査研究は、ますます重要性を増していく。さらにアジアを中心とした各国と国際交流を強化することは、沖縄の存在価値を高める。

そのため、OPACとしては、財政基盤の強化、調査研究の成果を上げることを念頭に、県・国・JICAなどとの連携を強化し、県内、さらにはわが国における専門的シンクタンク&行動組織を目指してもらいたい。理事としての私の役割は、沖縄経済同友会との連携の強化に努めることだと思っています。



1. 氏名・職業

氏名：大城常夫 職業：琉球大学法文学部教授

2. これまでのOPACを振り返って

沖縄の「ソフトパワー」の顕在化が21世紀の沖縄、日本、アジア太平洋地域の安定・安全、繁栄にとって重要課題だとかって指摘しました。OPACはその「ソフトパワー」の一つと考えていますが、意欲的な活動を裏付ける予算の確保ができていない。

3. 今後のOPACへの期待とそこで私(理事)が果たしたい役割

観光産業は、異文化交流を通して相互理解を生み出す平和産業であり、アジア太平洋地域の観光産業・人材育成を大学とOPACと政府・県の産官学プロジェクトとして取り組んでみたい。

OPAC
新規理事
紹介①

新規OPAC理事
宜保 友理子
さん



はじめまして。理事の宜保友理子です。今年度から、広報担当理事を務めさせて頂いております。OPAC事業には具体的には、JICA事業『沖縄の戦後復興と平和構築』ワークショップのファシリテーターとして関わっております。

平成15年度沖縄県「戦略的専門家育成事業」第一回派遣研修員としてアメリカ・シリコンバレーにて産学官連携の実践研修を行い、約2年間の研修後、今年始めに帰沖し、創立したばかりの株式会社沖縄TLOにて知的財産の保護・活用の観点から沖縄の地域振興・活性化に取り組んでおります。

OPACとの出会いは、平成14年の秋、ロンドンの大学院にて地域振興開発学を学び、帰沖した際に遡ります。

実はその前の平成12年頃、ちょうど私が修士論文作成中に、国際政治学会誌に掲載されていた、現副理事長の上杉勇司氏の論文「『沖縄問題』の構造」に出会いました。当時私は沖縄における地域振興をテーマに取り組んでおり、壁にぶつかっておりました。上杉氏の論文を読んで、沖縄問題は、「沖縄における地域レベル」、「沖縄と中央政府レベル」、「国際レベル」の3ステージに分けて分析する必需性を学び、私自身の論文作成に影響を頂いたことを覚えております。

そんな上杉氏が沖縄でご活躍とのことを知り、すぐにメンバーに加えて頂きました。当時OPACはNPO法人格取得に取り組んでおり、メンバー全員パタパタしておりましたが、メンバー全員素晴らしい方で、いつも幸せな気持ちでやりがいを感じておりました。その後私は財団法人南西地域産業活性化セ

ンターに移りましたが、OPACと共に沖縄県企画部事業「国際貢献拠点構想」の調査研究を行いました。

もうひとつ、OPACに関わりたと思った理由があります。

それは、沖縄発の紛争予防・安全保障分野の拠点になるというミッションを掲げていたからです。

私のライフテーマは、「沖縄振興」と「産学官連携の拠点のコーディネーター」の二本柱です。異なるセクターが連携・協力することにより、沖縄振興へと展開することが出来たらという思いです。

OPACにはたくさんの素晴らしいミッションがあり、それらを遂行しているのも偉大な功績ですが、さらなる特筆すべき多大な功績があります。それは、人材育成の場になっているという点です。県内外に留まらず、世界中から優秀な人材がOPAC事業のサポーターとして集まります。これまでもたくさんのインターン生を受け入れていますし、その後は創立当時のメンバーも含め、皆さん様々な国・地域でOPACの活動で得た成果を発揮しております。

OPACは様々な展開の可能性にあふれています。このニュースレターをお読みの皆さんもどうぞご自身の専門を活かして様々なご提案を頂きますようお願い致します。

私自身も今後も、OPAC応援団として様々な形で関わっていきたくと思います。具体的には私の専門性を活かし、OPACが創出した様々な知的財産を保護し、さらなる展開へと飛躍することを視野に入れております。

今後とも、OPACの発展をお祈りするとともに、読者の皆様にはご支援くださいますようお願い申し上げます。

(これまでにも設立メンバーとして、立ち上げから協力いただきましたが、今期より新しく理事に就任いただきました。)

OPAC けいじばん

○これからの研究会開催予定

次回以降のセキュリティレビュー及びピースビルダーズレポートの実施について、下記の通り予定しております。スケジュールの参考までにご参照ください。

- 11月23日 「訪米調査報告／新沖縄県知事への要望」
 - 12月中旬 「選挙後の東京・ワシントン・沖縄」
 - 1月初旬 「OPAC5周年記念レポート」
 - 2月初旬 「東ティモール、その復興の現状」
 - 3月中旬 「基地研究年間調査報告」
- (以上は予定につき、中止・変更の可能性もありますがご了承下さい)

○インターン・ボランティア募集

OPACではいつでもインターン及びボランティアを募集しております。関心のある方は、是非OPAC(担当：清水)までご連絡下さい。

編集
後記

今回は発行が少し遅れましたが、通算12号となりました。再発行にまだ慣れないところありますが、これからもよろしく願いいたします。

次回(13号)は12月末の発行を目指して頑張っておりますので、ご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

また、日々の情報発信としてのブログは引き続き更新して参りますので、こちらも是非のぞいてみて下さい。ご意見やご感想お待ちしております。(OPACブログ：<http://blog.livedoor.jp/opac/>)

OPACでは会員を募集しています。

賛助会費は3千円からです。詳しくはホームページをご覧ください。
<http://www.opac.or.jp>

会費
振込み先

銀行：琉球銀行 本店
口座番号：普通469250
口座名：沖縄平和協力センター理事長 糸数剛